

種子交換会の開催が作物の伝統的な在来品種群の保全に果たす役割

○藤崎 健一郎・三玉 璃紗

“Main Crop Seeds Act”, which obligated local governments to support seed production of certain crops, was repealed in April, 2018. Crop breeding has been drastic lately, and a lot of crop seeds are now categorized as First Filial Generation (F1). F1 seeds are uniform and have combined advantages of different strains altogether. However, as F1 seeds become more popular, traditional cultivars may face extinction crisis. As a solution, seed swapping events were suggested. According to this case study, around 40 people from the area ranging a few dozens of kilometers participated in the event, bringing together about 150 species of crop seeds.

1. 研究の背景と目的

本研究の発表日直前の 2018 年 4 月 1 日に主要農作物種子法が廃止されている。同法は 1952 年に制定された法律で、都道府県は主要農作物の原種及び原原種の生産を行わなければならないと定められていた。この法律が廃止されることによって主要作物の種子生産に対する公的予算が大きく削減されることが懸念される。

また、近年農作物の育種が進み、市販種子の多く（大手種苗会社へのヒアリングによれば約 9 割）は F1 品種であり、在来品種の流通はさらに減少していくことが予想される。F1 品種は優れた形質を合わせ持ち、品質の均一性が高いなどの利点がある。しかしながら少数の品種による寡占化が進む一方で在来品種が消滅し、昔ながらの味の伝統野菜が食べられなくなったり、遺伝子の多様性が失われたりしていくことは危惧すべきことである。

多品目少量ずつ残されている伝統品種群を保存していくことは商業的には成り立ち難く、公的機関の関与あるいは公的資金の投入も望まれるところであるが、現況においてはそのような仕組みはほとんどなく、種子法の廃止等によって行政からの支援は退行する方向にある。

一方、民間団体等が種子交換会などを開催する活動があり、伝統品種を含む遺伝子の多様性に貢献していることが期待される。

そこで、種子交換会およびそれに類する活動事例を調査し、これらの活動が果たしている役割と効果を示すことを目的として本研究を実施した。

2. 種子交換会等の歴史

(1) 調査方法

種子交換会等について文献およびインターネット情報

を収集し、また有機農業の盛んな埼玉県小川町でヒアリング調査を行った。

(2) 調査結果

Seedy Sunday の HP¹⁾には、「Seedy Sunday in Brighton and Hove」が 2002 年に開催した Seed Swap(種子交換会)がイギリスで初めての種子交換会であると記されている。このイベントは毎年 2 月第一日曜日に開催されており、イギリスで最大かつ最も古くからある種子交換会であるとしている。そのきっかけとなったのは、Brighton and Hove Organic Gardening Group の会員 2 人が 2001 年にカナダに行った時に「Saltspring Seeds」(種苗会社)の Sharon Rempel 氏が主催した Seedy Saturday (種子交換のイベント)を見たことであると記載されている。

そこでカナダにおける Seedy Saturday について調べてみると、現在は各地で Seedy Saturday の名が付いたイベントが開催されているが、その起源は前述の Sharon Rempel 氏が 1990 年にバンクーバーにある the Van Dusen Botanical garden で開催したものであった²⁾。

アメリカでは 2006 年に第 1 回めの「annual Washington Gardener Magazine Seed Exchange」が開催されたのを記念して、1 月最終土曜日が「National Seed Swap Day」に制定され、各地で関連イベントが開催されるようになっていく。

種子交換は有機農業関係者からの関心が高いと想定し、有機農業の盛んな埼玉県小川町について文献調査と聞き取り調査を行った。その結果、篤農家の金子美登氏という人物が有機農業の発展を図ろうという考えから 1982 年に種苗交換会を開催していたことがわかった。これは、農家が自主的に交換会を企画する活動の原点となったと

Effectiveness of seed swap events to conserve traditional crop varieties

Fujisaki Kenichiro, Mitama Risa

キーワード (Keywords): 種子 (Seed), 作物 (Crop), 伝統品種 (Traditional varieties), F1 品種(First Filial Generation), 種子交換会 (Seed Swap Event)

される⁴⁾。前述の欧米における種子交換会の始まりよりも前のことになる。この種苗交換会は特定非営利法人「日本有機農業研究会」に継承され、「関東たねとりくらぶ」（種苗交換会）の名称で毎年開催が続けられている。一方において小川町での聞き取りの結果から、有機農業が必ずしも在来品種を採求しているわけではなく、多くの農家が市販のF1品種を栽培していることがわかると共に、その中においても在来品種のみを栽培し、絶滅しそうな品種の種子を近隣農家から収集して品種の保全に努めている農家を見出すこともできた。

さらに歴史を辿ると、明治時代初期に農事改良を目的とした農談会等の組織が各地の農村に作られ、1875（明治8）年に京都府紀伊郡に種子交換会が設けられ⁴⁾、1878年には秋田県の県営植物園で種子交換会が開催され、このイベントはJ A秋田中央会が継承して毎年開催されており、昨年（2017年）は140回目を迎えている。

3. 種子交換会の事例調査

（1）調査方法

種子交換会の開催方法、種子の種類、参加者の特性等を知ることを目的とし、資料等の閲覧、団体の運営委員および参加者へのヒアリングとアンケートを実施した。

（2）調査結果

参加費は無料の所と500円程度集めている所とがあった。交換する種子は自家採取したものに限られ、種苗登録などの権利を侵すものを出すことは禁じられている。持参する種子が無い人も参加して、種子を譲り受けて帰ることが認められている。その場合には、種苗持参者の交換が終わった後にしたり、カンパを募ったり、栽培後に採取した種子を後日戻してくれることを要望したりされている。

交換会の事例の一つとして、「たねのわ」による「種の交換会」について記す。「たねのわ」は種採り講習会&畑の見学会などの行事も開催している。種の交換会は事前申し込みとしているが、誰でも参加でき、参加費は無料である。2017年11月26日に埼玉県日高市にある果樹園内で開催された「種の交換会」において、参加者約45人の中で、同伴者や見学者を除く20名にアンケートとヒアリングの協力を得ることができた。参加者の居住地は図1に示すように埼玉県各地に広がっており、長野県、神奈川県、東京都からの参加者もいた。専業農家が約25%、兼業農家が約10%、家庭菜園が約65%であった。参加のきっかけは知人の紹介が55%、インターネット樹法が15%、その他25%であった。この日に持ち込まれていた種子の種類は表1に示す15科150余種あった。



図1 「種の交換会」の開催地と参加者の居住地

表1 「種の交換会」に出品された植物の品目

科	品 目
アオイ	モロヘイヤ、オクラ、トロロアオイ、メンカ
アブラナ	カブ、カラシナ、コマツナ、ミズナ、キバナスズシロ（ルッコラ）
アヤメ	シャガ
アロエ	アロエベラ
イネ	アカマイ、イネ、トウモロコシ、コムギ、モロコシ、ライムギ、ラグラス
ウリ	カボチャ、ズッキーニ、バターナッツ、キュウリ、マクワウリ、スイカ、ニガウリ（ゴーヤ）、トウガン
ゴマ	キンゴマ、ゴマ
サトイモ	キョウイモ
シソ	エゴマ、スイートバジル、バジル、ホーリーバジル
セリ	ニンジン
タデ	ルバーブ
ナス	トウガラシ、ピーマン、トマト、ナス
ヒルガオ	サツマイモ
マメ	インゲンマメ、エンドウ、ササゲ、ジュウロクササゲ、セスパニア、ダイズ、ソラマメ、ペニバナツメクサ、ラッカセイ
ヤマノイモ	ヤマノイモ

4. 考察

種子交換会は140年以上の歴史があり、近年は作物品種の単純化が進んでいる中において、伝統的な品種群の保全に新たな役割を担っていることが認識された。事例調査においては、他県を含む広範囲から参加者が集まり、150余の多様な種が交換されていることがわかった。

参考文献

- 1) Seedy Sunday HP : <http://seedysunday.org/>
- 2) South Cariboo Sustainability Society HP : <http://southcariboosustainability.com/>
- 3) 西川芳昭編(2013)「種から種へつなぐ」：創森社,39-62(河瀬),64-82(林)
- 4) 濱田敏彦（2017）：明治前期における農談会に関する一考察 広島経済大学創立五十周年記念論文集下巻 227-254